

## 会 議 録

会 議 名 (審議会等名)		平成19年度 第4回 川西市社会教育委員の会	
事 務 局 (担 当 課)		生涯学習部 社会教育課 (内線 3421)	
開 催 日 時		平成19年7月25日(水) 10時00分～12時00分	
開 催 場 所		川西市役所 地下1階 B02会議室	
出 者	委 員	生田議長、小柳副議長、森委員、敷地委員、後藤委員 佐道委員、武村委員、池田委員、福島委員 計9名	
	そ の 他		
	事 務 局	玉邑生涯学習推進室長、後藤中央公民館長 小畑学校教育室長、横田中央公民館主幹 神吉社会教育課主任 計5名	
傍聴の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由		0名	
会 議 次 第		1. 報 告 (1) 兵庫県社会教育委員協議会 総会・研修会について (2) 阪神北地区社会教育委員協議会 第2回理事会について (3) その他  2. 議 題 (1) 年間テーマ「よりよい地域教育システムづくり」 (2) サブテーマ「人でつながる場づくり」  3. その他	
会議結果		別紙のとおり	

# 審 議 経 過

No. 1

議長	<p>前回、最後の方でこれをやりたいということは固まっているのですが、方向性が中々決まっていけないということですので、今日は焦点を絞っていけたらなと思っています。</p> <p>例えば、家庭教育の部分あるいは集いの場、場とは何かということにもなってくるでしょうし、つなげるという部分でも、前回公民館の話も少し出たのですが、その辺、的を絞った形でいけたらなと思います。</p> <p>切り口、どこから切っていけばいいのかということがちょっと議事進行で迷うところなのですが、意見がありましたら出していただけたらと思います。</p>
A 委員	<p>家庭教育がやはり大事だということで、子どもを持っている若いお母さんが、孤立している、おじいちゃん、おばあちゃんのいない家庭で一人孤立して子育てに悩んでいる。「子育てあらかると」という冊子があるのですが、これを見ると（子育ての）サポートをしているグループがたくさんあって、「赤ちゃん交流会」だとか「自主グループ」だとか「サポートセンター」だとかいっぱいあって、近所の赤ちゃんを持っていらっしゃるお母さんに「こういうの知ってますか。」とお渡ししたらすごく喜ばれて、やっぱり悩んでいると、公園とか行ったらいいのかなとか思っていたらっしゃるのですが、こういうのがあると、「そしたら早速連絡してみます。」とおっしゃったのです。</p> <p>だからすごくいいのがあるのだけれど、必要としている方にどういうふうに伝わっているか。</p>
B 委員	<p>私もちょっとだけ参加させてもらったことがあるのですが、保健センターで定期健診に来られますよね、3歳とか。それを直接渡しているということはないと思いますが、そういう時に結構、ご紹介とかされているようです。</p>

## 審 議 経 過

No. 2

A 委員	そういう方も、結構きっちり検診は行ってらっしゃるのだけれど、気がつかない。
B 委員	だから多分、お話はされているのだけれど、その時たまたま子どもさんの方に気をとられたりとかされているのじゃないかなと。言っても来られる方は全員じゃないのです。来てくださる方は、そこからまたグループ化して、それで人数が増えていったグループが、たくさんあるのです。
A 委員	すごく多いですね、だからあちこちの地域で赤ちゃんを連れてお母さんが交流会をしている。ただ集まっておしゃべりするだけでも。
B 委員	いろいろなことを、今、親子でお料理を作られるとか。
A 委員	そこで話をするだけで安心するという。それですごくああ、いいなって。でもやっぱり伝わっていないのかなって。そうするとやっぱり情報をどうやって末端に伝えることができるのかというのがある。
B 委員	難しいですね。本当にいつも思います。
A 委員	本当に必要としている人にね。
B 委員	でもちゃんと発信はしているのだけれど。
A 委員	家でずっといらっしゃる方にといたら、「いろいろ発信しているのだから、ちょっとアンテナを張ってくれたらすぐにキャッチできるのですよ。」とおっしゃるのですが、そういう方は絶対にアンテナを張れない人なんですよ。

# 審 議 経 過

No.3

A 委員	<p>末端にどうして伝わっていくかというのが、すごく大事なのではないか。そういうサポート役というか、考えていただきたいと思います。</p>
C 委員	<p>例えば3歳児検診とか「必ず来なさい。」という通知が来るわけでしょう。母子手帳をもらって。必ず来るところに、こういう冊子（子育てあらかると）を渡すというシステムを作ってしまうのではないのでしょうか。</p>
B 委員	<p>チラシみたいなものを1枚お渡しするだけでも、違うかもしれませんよね。あそこに貼り出していますのでとか。</p>
A 委員	<p>その時は、やっぱりそっちの方で必死になっているから、お話されてもきっと頭に入らないと思います。</p>
B 委員	<p>自分の子どもに今集中して、検診に来ているからつい自分の子どもはどうなんだろうと、そっちばかり意識して先のことはちょっと見えていないのかもしれないですね。</p>
議長	<p>毎回、A委員から出していただいている家庭教育、あるいは子育ての問題を踏まえて、やはりそれも一家庭個人だけでは成り立たない、昔のような形ではない。やはり地域社会が支援をしていくというか、育てていくんだというような形に持っていかなければいけない時代に到達している。</p>
A 委員	<p>地域が、おじいちゃん、おばあちゃんの役割を果たすというね、お母さんと一緒に助けていくというね。</p>
議長	<p>そうですね。そういうことはずっと昨年、一昨年も論議をして、</p>

議長	<p>それこそ最初にお話しましたように、意見としては固まっている。少しこれを切り口に今日の場面はしていきましようか。</p> <p>あと5回の中で、今日はやっぱり、家庭教育、子育て支援、あるいは子どもを含めての居場所と、一昨年の部分と一緒になんですけど、それより段階的に現実を注視してみるという形で論議していきましようか。</p> <p>今日、残りの部分につきましては「人でつながる場づくり」、家庭教育、子育て、子ども、この辺に焦点を当てながら、つながる、あるいは場づくりということで現実を論議しながら、一つの方向というものを我々としても共通認識してまとめたらということで、今日の第4回は進めていってよろしいですね。</p> <p>副議長から何かありましたらお願いします。</p>
副議長	<p>行政の施策としても家庭教育、子育て、いろんな施策を打たれているのが現実ですが、実際それを先程も出ましたが、当事者である親御さんでもご存知ない方がおられる。</p> <p>他の会でもよく出るのですが、色々な情報を行政の方も発信されているけれど受け止めてもらっていないというか、困っていない時には情報が流れてきても必要としないとか、そういう部分があって受けとめきれていないのですね。</p> <p>我々も論議する上では、子育てとか教育、子どもの居場所について現在どういう施策がなされているかということを確認しておく必要があるのではないのでしょうか。全然そういうことも知らないままに、「こんなのがあったらいいよね。」と言っている、「実際にそれはありますよ。」という話では前に進みませんので。</p>
議長	<p>大事な指摘ですので、現実に関我々が体験している部分しかわからないのですが、もし事務局の方から家庭教育並びに子育てについて、何か今進んでいる部分や施策的なものを簡単でいいので、もし</p>

議長	ありましたらお願いします。
事務局	<p>「子育て支援」の関係ですが、それについて私の方から分かる範囲で申しあげます。今現在、「子育て支援」施策の中心になっているのはまず、保育所です。</p> <p>これが今、市内に9つの公立保育所があります。民間が今、5つあります。働きながら子育てをされるような家庭が非常に増えているし、母子家庭や父子家庭が現実には増えている状況にあるので、そういう子どもさんを預けて働かざるを得ない方が増えているというようなことから、保育所の施策がかなり重点的にやっております。</p> <p>ただお預かりするというだけではなく、保育の中身の問題も非常に大事なことなのですが、例えば保育時間を今現在、通常12時間、朝の7時～晩の7時まで、民間は8時までの所もあります。</p> <p>それと、乳児保育や保育の中身のサービスについても考えていかなければならないと思っています。</p> <p>今特に、保育所に求められているのは子どもさんをお預かりするだけではなく、いわゆる在宅の家庭に対する支援を併せて実施していかねばならないというような役割も近年言われてきておりました。例えば園庭開放ということで、これは公立保育所も含めてどこも週一回程度、地域の子育て家庭に対して園庭を開放して、保育所に通っておられない方についても園庭開放の中で、人とのつながりを持っていただくと、同じ子育て家庭に対するそういう場を広げていくという形で、園庭開放という事業を実施しています。</p> <p>それと併せて例えば、オープンにして保育所の行事に地域の方に参加していただく。保育所によってそれぞれ特色を出して、地域へのいわゆる、子育て家庭への支援という形で今実施しております。</p> <p>それから児童施設としましたら、久代に児童センターがあります。それと、総合センターの中に児童館があります。これはいわゆる児童福祉施設で、地域の方にもオープンでそういう遊びを提供し</p>

事務局	<p>ていくということです。</p> <p>牧の台小学校の中に、地域子育て支援センターがあります。ここは児童館と同じように、地域の方の小さいお子さんの遊び場にもなっているわけですが、ここは特に地域の子育てグループですね、それぞれ各地域で子育てグループを作られて、そこで子どもさんの交流、また親同士の交流を図られています。</p> <p>もともとそのスタートが、保健センターでやっている赤ちゃん交流会、そういったものをベースにして子育てグループを作っていくというケースが多いようですが、そういった子育てグループのコーディネーターの役割を、牧の台子育て支援センターで行っています。</p> <p>それから、パレット川西と総合センターの中でいわゆるプレイルームというのを開設しておりまして、これももちろんオープンで、月・金がパレット、火・水・木が総合センターで、これも子育てされている家庭の受け入れをプレイルーム開設で行っており、子育て相談なども専門職員が受けています。</p> <p>そういった中で先程申しあげた、子育てグループなどのコーディネーターも併せて実施しています。</p> <p>それから各地域で、もともと県が始めた事業ですが、町の子育て広場というのがありまして、これは個人さんや保育所などが看板を出しておられる所もあります。各地域で民生委員さんも個人でされている方もいらっしゃいますが、そういうところで同様に地域のお子さんの集まれる場所を作っていくというようなことがあります。</p> <p>あと、もちろんそれぞれ専門の職員で、子育て相談や、今問題になっている虐待に関する相談などを市の子育て支援の方で行っています。</p> <p>そういうような事業を今、行っております。</p>
議長	ありがとうございました。経験豊かな、館長さんですので。直接

<p>議長</p>	<p>担当をされた時代もあったと聞いておりますので。前に、生涯学習部から答申されました、川西市生涯学習計画を読んでも家庭教育、子育ての部分からスタートしております。この委員の会で3年程前に答申された部分の中にも、やはり謳っていらっしゃる基礎的な部分なんです、いかがでしょうか、今の川西の行政サイドからの現状のお話がありましたらお願いします。</p>
<p>C 委員</p>	<p>今の保育所のことを言っておられましたが、質問があるのですが保育所の今の色々な施設なのですが、それは必要な人は全員利用できるようなシステムになっていますか。</p> <p>色々な施設が必要な方は、たくさんいらっしゃると思います。必要な人が全員利用できるようになってきているのか、というのがものすごく問題になってきて、そういうことを知らない人というのも結構いらっしゃると思います。そういう知らない人に、どのような方法で知らせていくのかというのが一つの問題でありますし、それを利用するに当たって費用はどうなるのか。これもすごく気になる問題ですね。</p> <p>それから、今現在利用されている状況ですね。それも知りたいです。その辺のところを踏まえて、色々考えていきたいなということなのですが。</p>
<p>A 委員</p>	<p>働きながら保育所に預けていかれる方は、必要に迫られているから、そういう方は自分から探されるのですよね。でも自分で子育てをしている人は、毎日の子育ての中でそういう所を必要としているかどうかさえ、自分で分からないうちにだんだん追い込まれていくという人って意外といるのですよね。やっぱりそういう自分から求めていく人じゃなくて、求めなくてそういった必要な人というのに、やっぱり行政サイドから情報を発信して何とか知らせてあげる。「こういう所に来たらいいよ。」というようなアドバイスとか</p>

A 委員	<p>ですね。</p>
C 委員	<p>特にそういう小さい子ども達の子育てというか、その辺が一番大切なところでありまして、その辺のところを飛ばして大きくなって行って中学生、高校生で行き悩んでいるというか、ぶち当たっているという家庭も結構たくさんいらっしゃる。その辺のところも問題があります。</p> <p>保育所の話なのですが、それは今のところ必要な人は全員利用できるシステムになっていますか。</p>
事務局	<p>保育所が必要な方というのは、いわゆる保育に欠けるというような条件があり、就労やいろいろな原因で、子どもの保育が十分できない方について保育所を利用してもらうというのが基本的にあります。ただ、現実にはだいぶ減りましたが、保育所がいっぱいで入られないといった待機児童がいらっしゃいます。どうしても年度末ぐらいになると5、60人ぐらいの待機児童がでます。そういうことで、今、待機児童の解消を目指して保育所の整備を進めています。ですから、すべての方が利用しているという状況では残念ながらいいです。</p>
C 委員	<p>待機児童の中で、すごく保育所を必要とされている家庭は結構あるのですか。</p>
事務局	<p>もちろんそういう方もいらっしゃいます。一時に比べましたらだいぶ整備が進んだので減りましたが、本来保育所を利用しなければならぬが、保育所がいっぱいで入れないというケースもあります。市内に無認可の保育所があり、本来的には無認可ですので独自で運営していただくということなのですが、川西市の場合は認可保育所で受け入れられない方は無認可保育所を利用しているという状</p>

## 審 議 経 過

No. 9

事務局	況もあり、無認可の場合は、できるだけいい条件で受けていただくということで助成をさせていただきます。
C 委員	そこで問題になるのは費用の問題ですね。費用のことで、必要であるが利用できないという方がたくさんいらっしゃるのではないかという気がするのですが。
事務局	そういう方もいらっしゃるのですが、認可保育所につきましては所得に応じて保育料を設定しているの、全く費用がかかっていない方もいます。収入のある方については高額な費用になります。それが果たして適切なかどうか、保育料の滞納の問題も出てきているので判断が難しいところだと思います。
C 委員	利用したい世帯への告知方法は、どういう風に行っているのですか。
事務局	広報紙やホームページ等です。保育所につきましては一般的な周知はおそらく100%そういう施設があるをご存知だと思いますので、実際に利用されたい方はお問合せいただいています。お電話の中には、費用が高くて行けないという話もあります。
B 委員	このパンフレット（かわにし子育てマップ）はどこに置いてあるのですか。
事務局	できたばかりで、この間、朝日新聞にも載っていたのですが、昨年準備して、できたのはついひと月前です。
B 委員	できれば、皆さん3歳児検診に来られるので、保健センターでこのパンフレットが渡せると、皆さんにこういうことをやっているんだ

<p>B 委員</p>	<p>なとわかっていただけだと思います。</p>
<p>議長</p>	<p>昨年コーディネーター役と、情報発信の大切さが、この会でも確認されたところなのですが、私の実体験ではこの冊子（子育てあらかると）を公民館に置いてあった時代があります。転入の方が住居を移転した時に、公民館にいろいろ情報を求めて来られる。私、僅か3年間のうちに5回程この冊子を渡しました。子どもを連れて転入してきたが、全く情報がないのでどこに行ったら情報が得られるのかということで、この冊子が丁度ありましたので、ものすごく喜ばれました。たぶんマスコミ報道された時代があったと思います。保育の部分だけではなく社会教育施設、特に公民館は改めて地域の情報発信を積極的に動けばと思います。子育てに関して講座も開いていただいているのではないかと思います。ですから、市民が見られたら喜ばれる情報ですので、行政の枠を超えて情報発信を有効に積極的にされたらと、まず情報発信ということがあろうかなと思います。公民館でもいいですし、他でもいいのですが、是非、場の紹介といえますか、せっかくなにかをやっていらっしゃるので。児童委員さんが中心になってやっていらっしゃると思うのですが。</p> <p>いかがでしょうか。今手元に具体例がありますので。</p>
<p>D 委員</p>	<p>B 委員が言われたことと同じことですが、冊子を保健センターで母子手帳と一緒に渡してもらったり、子どもが生まれる病院に置いてもらう、そういう風な形でやっていただいたらと思います。</p> <p>今、目に入ったのは、母親学級や両親学級や訪問指導とか赤ちゃんができたらやるような形になっているのですね。教育相談というものもある。できるできないはあるのですが、今後10年後の赤ちゃんたちを見据えた上で、親が学んでいかないと、きっと変わっていかないとしますので、そこで公民館を使ってもいいですが、講座になるのか、そういった形のものをできる教育システム、そういうイ</p>

D 委員	<p>メッセージができないのかなと思っています。</p> <p>例えば母親学級、両親学級、その上に今度子どもが小学校へ行くまでにちょっと集まってもらえて、確実に来ていただけるような勉強会というものを系統的にできないかのか。必ず母子手帳を取りに行ってお話を聞いて教育を受けていただいて、母親学級とか行っていただけなのか私はわからないのですけれど、もしそういうことがあるのであれば、その延長線上にそういうシステムやカリキュラムがあればいいのではないかと思います。</p>
B 委員	<p>それと共にこういうもの（かわにし子育てマップ）を作ったら、こういうものを置く場所が大事なのと、あと場所だけではなく渡し方、伝え方、母子手帳と一緒に渡すとか3歳児検診の時とか確実に伝わるやり方を考えていく。ただ置いているだけでは中々伝わらない。アンテナを立てている人は気が付くけれど、立てていない人にこそ知ってほしいものなので、そういう方法、つながるものを考えていくのがいいかと思います。</p>
議長	<p>発信とつながり、場づくりですね。</p> <p>公民館を会場にした母親学級、そして公民館の講座とも連携してやっているのではないかと私は認識を持っているのですが、それだけ公民館は大事な場なのですが、どうでしょうか。</p>
事務局	<p>川西子育てフェスティバルを、毎年11月ごろ大集会室を中心として行っています。ここで情報の発信とか子育ての相談、そういった内容のイベントを年1回ですが行っています。</p> <p>また、ブックスタートといった事業の一環として、読み聞かせのカリキュラムを公民館等で行っています。ただ公民館独自の事業としてどこまでできるかは、中々難しい問題があるのですが、そういった子育ての関係については、すこやかこども室の方と連携しながら</p>

## 審 議 経 過

No. 12

事務局	ら、会場の提供など考えていかなければならないと思っています。
A 委員	そのフェスティバルの参加人数は把握していますか。
事務局	把握しています。かなり見えます。
A 委員	保育所や幼稚園からの情報で来られるのですか。
事務局	市の広報やチラシ、保育所、幼稚園、保健センターいろいろな場所を通じて来られます。
A 委員	回覧板に市の情報が回ってくるが多くなったので、すごくいいなと、回覧板が見直されてきたのかなと思っています。
C 委員	回覧板をもっと利用すべきですよ。
A 委員	やっぱり回覧板、手から手ですよ。中央図書館でもインターネット化が進んでいて何でも家からパソコンで申し込めたり、取り寄せたりするけれど、「回覧板です。」と渡すだけでも違うので、こういう元のものをもっと戻してくのは必要だと思います。
議長	毎回この会でも情報発信の仕方として回覧板を提起されていらっしゃるんですが、行政サイドから回覧板うんぬんという形のアドバイスがいいのか。それぞれの地域の自治活動の話なのか。自治会やコミュニティ組織が円滑にしている所はいいでしょうが、中々難しい部分もあったりするのですが、行政サイドから我々委員会の中で提言した方がいいのかわからなくて。事務局はどうでしょうか。
A 委員	命令だったらよくないのかもしれませんが、案内や「いい結果が出

A 委員	<p>ていますよ。」といったお知らせみたいなのはどうでしょうか。</p>
議長	<p>それはその地域の自治の力でしょうね。</p>
E 委員	<p>自治会で班を作って班の中で回覧している。私の所も昨年か一昨年地域の班長を受け持ったのですが、その指導を誰がしているかという、自治会の方も班長に任せているという返事でした。班長や役員になった時には言われたことはするのだけど、自主的なことが入っているかということについては、その指導力が非常に弱い。地域力ということに関係してくると思います。</p> <p>かわにし子育てマップを置いておくだけという形よりも、これを一番理解しているのはどこなのか。そこをベースにしながら、その輪を広げていくという形の中で置く場所を順次拡大していく必要があると思います。うちはここだけですと、セクト的な形ではなく、総合調整、これらについても少なくともメインの所だけは市内の公民館のどこでも説明できる体制を、如何にして作っていくべきかということがでてくると思います。</p> <p>自治会の回覧板の効果はあるが、それをする人が如何に続けていくか、その指導、発信する場所を、公の中で決めていく。すなわち総合調整の説明ができる所。そしてそれをベースにしてどこそこに置いているという形で。知識が得やすい環境を作っていくということが、これだけ立派なものができるのとそういうことが可能になるのではないかと思うのです。</p>
議長	<p>かわにし子育てマップは、行政サイドから見たら、発行は健康福祉になっているのですが、教育委員会から人権推進の方からすべて網羅した形になのですね。前回も他市の状況を報告した、子ども部門を全部ひっくるめた行政組織を作り出したという、時代の流れが分かりませんが、教育委員会も福祉もごちゃ混ぜの子どもの未来部</p>

<p>議長</p>	<p>といった行政が出てきましたが、セクト主義でないというのはわかるのだが、ややもすると情報発信が個々バラバラになってしまっている。</p> <p>皆、子どもにつながっている。そして大人が集う場面、きっかけが大切だということを改めて確認できたところなのですが、今の意見を踏まえながら皆さん方ご意見を出していただけたらいいと思います。</p> <p>保育所が出ましたら、幼稚園の問題が出てくるのですが、固定概念で、保育所は厚生省、幼稚園は文部科学省と、まだそういう発想があるかもしれませんが、実質的には保育所も幼稚園もどうなっていくのか。その辺の国や県の流れ的なものをある程度は皆さん方ご存知だと思いますが、どうでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>幼稚園も5歳児だけの1年保育を、市の方で2年保育に切り替えているのですが、将来的には3年保育を目指してやっていかなければということなのですが、以前から幼保一元化の議論はいろいろされています。やはり先程おっしゃられたように厚生省、文部科学省といった壁が中々破られないというのが実態です。市内の実態を見ても、久代の保育所の丁度横に幼稚園があり、それをひとつにしたらいいいのではないかという議論なのですが、中々その壁が破りにくい、いろいろな課題を抱えている。</p> <p>最近認定子ども園という制度が出てきていますので、そういう方向から徐々に幼保一元化が時間はかかると思いますが、進んでいくのではないかと個人的に思っています。</p>
<p>B 委員</p>	<p>この間の兵庫県の社会教育の時に、一番最後の所に、放課後子どもプラン、早寝早起き朝ごはん国民運動の全国展開というところで、文部科学省、地域子ども室と放課後児童クラブというのが一緒に、総合的な放課後の対策を実施していきましょうというので、</p>

<p>B 委員</p>	<p>くっ付けるというか、一緒に考えていきましょうという風になっていましたし、早寝早起きの方では基本的な生活習慣の乱れを直すために同じように考えて、子どもの生活リズムの向上プロジェクトと早寝早起き朝ごはん全国協議会の設立と、両方で子どもたちの健やかな成長のための基本的な生活習慣の確立というので、一緒に考えていこうという風になってはきているのかなと思っています。</p>
<p>議長</p>	<p>来年ぐらいに文部科学省が施策として出す、まだ想定ですが報告されていきました。そうなっていくと決まっているようです。</p>
<p>B 委員</p>	<p>かわにし子育てマップの話に戻りますが、今は福祉部が作っている子どものプランについて一緒にやっという話が進んでいる中で考えると、社会教育の中で公民館が全部をわかることは中々難しいと思うのですが、こことここで、こういうものがありますよといったつなぎの役目は公民館ってすごくいい場所で、地域に分かれてそれぞれありますし、いろんな世代の方が利用もされているし考えていくのにいい場所だと思っています。</p> <p>あることを知らないという人たちを、どうするかが大きな問題と思います。知っている人たちや、何かをと思う人たちはどんどんするけれども、そうでない人たちにどう伝えるか。</p>
<p>C 委員</p>	<p>知らない人たちというのは他と交流を持ってない人でしょう。</p>
<p>B 委員</p>	<p>持てないというか、知らないのかもしれませんがね。</p>
<p>C 委員</p>	<p>私はこういうものを通して大人の、親の交流を深めていくというのがすごく必要だと思うのです。子どもだけ預けました、だけでは不十分だと思います。親同士がコミュニケーション、情報交換していい方向に向いていく。私はそこまでいかないという意味がないと思</p>

C 委員	います。
B 委員	<p>私は水泳協会に所属しているのですが、助産師協会の方からマタニティーさんの水泳をやってもらえませんかと6年前に頼まれて、始めたのです。助産師さんが必ずそこに来ていただくのが条件で始めて、巣立って行って、今年初めて親子の同窓会をしました。今までは、私たちとマタニティーさんということでつながっていたのですが、今度はお母さん同士がつながってもらえるといいなということで今回初めてやったのです。次はお父さんも入れたらいいねと話していたのですが、何か私たちが動いてつなげてあげてことを手立てとしてやっていくことが大事だと思います。</p>
議長	<p>今の事例でいうと、終わった後に誰か旗振り役というのがコーディネーター役でやっていらっしゃるということですね。場所はどのような所ですか。</p>
B 委員	プールです。
副議長	<p>今日子育ての施策を聞いて、保育所なども園庭開放などあり、うれしく思ったのですが、行政の方でも必要性を感じられて、場も作られているが、それだけではだめで、そこに如何にうまく市民が入っていけるかということが大切だと思います。</p> <p>市民の思いと行政の施策が一緒にならないとできないと思います。市民のボランティアグループやNPOなどいろいろな所が入って常にひらばで助け合える、そういう風な所につなげていけたらいいと思います。場があって市民が入って行政も入って共同でできるそんな形が作れないかとなと思います。自分から情報を取っていかれる方は問題はないですが。</p>

C 委員	<p>そういうボランティアはすごく必要ですよ。</p>
議長	<p>現実を踏まえながらでない論議を進めていけない部分はあるかと思いますが。</p>
A 委員	<p>NPOの団体に介在していただくというのが必要になってくるのでしようね。米原の公民館の話でも団体が入ってくれることによって子ども達の潤滑油になっているような気がするのです。入り込むのではなく、中間に立つという。</p>
B 委員	<p>でもそうやって入ってくる人はアンテナを張っている人なのです。アンテナが張れていない人をうまく考えないと。</p>
A 委員	<p>それは回覧板ですよ。</p>
B 委員	<p>回覧板もちゃんと見ようと思う人でないと見ないです。</p>
A 委員	<p>昔の汚い回覧板を回すのではなく、子ども達がかわいくお絵かきして、それを表紙にしたかわいい回覧板が回ってくると見るのですよ。</p>
B 委員	<p>こういうのをどうやって伝えていくことができるんだろうというしくみ、それを考えていくことは社会教育の仕事の一つだと思います。</p>
E 委員	<p>回覧板はただ回ってきてるだけですか。それによって話をしていますか。</p>
A 委員	<p>いろいろ話題があるのですよね。あそこのお寺でアライグマが出</p>

A 委員	<p>たので注意してくださいという回覧板が回ってきたのです。そうしたらご近所のみなさんが集まってその話題になりました。</p>
E 委員	<p>回覧板がお話しをする話題になるという形の運用ができるというのが回覧板の効用の一番大事なところです。回覧板を見て話をするということが大切で、例えば学校の帰りに変な男の人がいたので気を付けようね、じゃあ帰ってくる時に立とうね、などと発展するような体制、仕掛け人、そういう意識のある人を、地域、地区に作っていくというか。</p>
A 委員	<p>立ち話をしている地域は犯罪が少ないといえますものね。</p>
議長	<p>集いの場なのです。これは人から仕組まれて集う場面もあるだろうし、自主的に求めていかれる場面もあるだろうし、そういうきっかけの場をどこかが誰かが仕組んでいかなければならない。</p> <p>現実、各コミュニティーや地域では大きなイベント的なものが年に1回か2回は必ずある。それは抽選で役になるかもわからない、きっかけは何でもいいと思うのですが、地域によって全然仕組みも違うし、トップさえ抽選で決めざるを得ない組織もあるのかもわからない。</p> <p>学校教育関係にしても歴史があるので、PTA、昔は育友会という形で伝統的には大きな母体、歴史と伝統を背負ってきた部分の学校社会を中心としたPTAという部分があるのですが、今回はG委員の方から自分の学校の例を挙げていかれたのですが、F委員どうでしょうか。子育てを中心としたところの地域の輪の連携という形で意見が出ていますが、実体験を含めてお願いします。</p>
F 委員	<p>かわにし子育てマップを見せてもらって随分あるなと思いました。如何に周知するかということかなと思います。それと併せて、</p>

<p>F 委員</p>	<p>中学生が関わる場があまりないなと思います。何個かお世話になっている所はありますが。</p> <p>結局いろいろ考えてみるけど、一番課題をもっている子が自分の頭の中に浮かんでくるのだけど、個人情報がかかり絡んでくる面もありますし、中々出しにくいところもある。今現実的に私の学校がいろいろ課題を抱えています、その中で連携しているのは子ども家庭センター、すこやか子ども室、青少年センター、教育情報センターであったりします。</p> <p>地域の中でいったら仕掛けは結構あると思います。私の学校は民生委員さんとのつながりがかなり強いです。1学期の終わりには課題を抱えている子の学校と民生委員さんの話しがありますし、担任と民生委員さんとの話があります。私の学校は地区懇談会というのがずっと続いています。3日間、1日2会場でやりますから6会場、かなり細かくやっています。それなどもいいなと思うのはテーマは大体思春期の子どもをもって、その悩みという形で、お母さんが悩みを出してそこで自治会長さん、補導員さん、民生委員さん、保護者に来ていただいて、お母さん方がいろいろ困っていることを確かめて子育ての先輩のような方がいらっしゃるので、いろいろアドバイスをされている。そこには5分の2ぐらいは参加されます。参加していらっしゃるお母さん方は横のネットワークがあります。だから来られている家庭は心配がないです。問題はネットワークから外れている家庭をどうするかということになってくる。教師が家庭に行ったり、家庭から学校に来てもらったり、今やっている形しか中々そういう保護者の方を引っ張り出すというのは難しい。個人的なしんどいものを持っていて、子どもの方が成長しきれないところがあるわけだから、それをさらけ出して話をするのは難しい。</p>
<p>E 委員</p>	<p>今、中学生の話が出たので、ちょっとお聞きしたいのですが、私は詩吟をやっているのですが、子どもの居場所づくりということ</p>

<p>E 委員</p>	<p>で、昨年と今年の春、小学生を対象として詩吟を発表会に出すということで2回目で15人ほど集まるようになりました。それで、中学生を対象というのが詩吟の関係にないので、大人の競吟の部門に参加してもらったらどうかという案が出ています。大人の場合、優秀者は兵庫県や大阪で参加できるのですが、中学生は市域外するのはどうなのか、父兄がどういう反対をするのか、学校としてそういうことをやるという了解をとってしないと、学校に迷惑がかかるのかということをお聞きしたいです。</p> <p>地域力の向上ということで中学生をということで、明峰地域の場合は自治会がやって効果が上がっているようですが、個人的にしたい人などは、個人で中学生の参加を積極的に呼びかけていった場合に学校に迷惑がかからないでしょうか。</p>
<p>F 委員</p>	<p>子どもの居場所づくりということでいろいろやっていたているのは、私の所では川西南公民館でやっています。</p> <p>私の学校の場合、子どもの居場所というのは部活動でないかと思えます。子どもの居場所というのは子どもが自己実現、自分の興味関心と合致していないと意味がないと思えますから一番の子どもの居場所となるべきものは私の学校でいったら部活動だと思えます。職員もそういう意識が強いですから、いろいろ委員会からはやりすぎはいけないと指導はきているのですが、やはり居場所を確保していかなければならないということでやっています。</p> <p>特別な支援をする子どもたち、学校が5日制になって一番困るのはそういった子の保護者なのです。だから私の学校の方は担当は土日活動しています。29日も夏を楽しむ会をやったり、秋にはバーベキューをやったりしています。その中でも公民館活動に参加している子もいます。ただし少ないです。どちらかという部活動に入っていない子については自分なりに興味関心のあるものに参加している。それはいいことだと思います。そこで自分自身の興味関心を</p>

## 審 議 経 過

No. 2 1

F 委員	<p>伸ばしながら、それについてはいいと思います。</p> <p>公民館のプログラムを見ていて子どもの興味関心に合うものがどれだけあるか、大人の興味関心とはまた違いますし。私の学校でいったら部活動を充実させることをが大事だと思います。</p>
B 委員	<p>部活には、たくさん参加されていますか。</p>
F 委員	<p>はい。8割、9割。</p>
B 委員	<p>参加されない中学生もいると聞きますが。全体的にはいかがなのでしょう。</p>
F 委員	<p>どこの中学校でもそれぐらいだと思います。</p>
B 委員	<p>それはいいことですね。</p>
A 委員	<p>そんなにいると思わなかったです。半分ぐらいかと思っていました。</p>
F 委員	<p>それはないです。</p>
議長	<p>教育室はどういう認識をもっていますか。</p>
事務局	<p>部活は特に調査はしていませんが、子どもの数が減ってきているので部活の数が減ってきたという指摘を受けることはあります。教師の数がたくさんいないので子どものニーズ全てに答えられる部活の種類を作るのは難しいです。</p> <p>部活の参加については、F委員がおっしゃったように大体それぐらいは参加しているのではないかと捉えています。</p>

# 審 議 経 過

No. 2 2

A 委員	<p>入会はしているけれども、出席はしないという子はいないのですか。</p>
F 委員	<p>それは少ないです。いろいろなパターンがあります。外クラブに入っていて土日は外クラブで、普段は学校の中の部活で活動に参加する子もいます。</p>
事務局	<p>居場所で考えた時、行政などでは場を設定し枠を作ったりするが、果たして子どもにとって居場所というのは何なのでしょうという風に考えていった時に、そこに自分の役割があるというか、そこに行けば自分の発言、行為が認められる、気持ちも良い、こういう場だと思います。むりやり行かされてここが居場所だと言われてもしんどいかなと思います。そういう意味では多くの種類があることが望ましいと思います。</p>
議長	<p>居場所については〇〇議長の時に教育委員会の方に1年間論議したことを報告していますので、事務局も読んでいただいていると思います。その中で居場所という問題について定義していますので、確認していただけたら有難いと思います。</p> <p>中学の年代のところまで現状認識の確認が進んできましたが、G委員お願いします。</p>
G 委員	<p>子どもの集まる所に親が集まるという風に様子を見ていて感じています。そこにまたおじいちゃん、おばあちゃんが集まる。人気があつてたくさん集まるのはどんなのかということが、大事だと思います。</p> <p>他府県ですが、娘が孫を幼稚園か保育所かわからないのですが、そこへ連れて行きましたら、たくさん0歳児の子どもさんと母親が来ていましっていて、いろいろな遊び道具が置いてあつて自由に遊ぶこ</p>

<p>G 委員</p>	<p>とができる。2人のベテランの保育の先生が時々ピアノを弾いて遊戯を教える、歌を歌う、本を読む、そういうことをしていてたくさんの方が集まっていた。</p> <p>子どもが1度行ったら喜んだ、また行こうかというところから出発した方がいいかなという気がします。今やっていることの中で、どこが母親、子どもさんに人気があってよく集まるのか、そこから窓口を開いていくのもいいのではないかと思います。</p>
<p>議長</p>	<p>子育てから話は広がって、現実の部分が具体的な形が出てきています。最後にG委員が言われたように、まず集まらないといけない。実態はどうでしょうか。結構そういう場面もあるし、仕掛けてもらっちゃる。</p> <p>大人の学びということで、子どもから中心に集まるのではなく大人自身の意識の問題とコミュニティーを作っていくという努力を一人ひとりがやっていかないといけないという結論になってこようかと思います。</p> <p>中学生だったら中学生なりの形の中で、例えば学校教育機関が部活という場面で関わりながら居場所を作っていく。また一面、心のゆとりの場面も子どもは求めている。それはもしかして母性愛に欠けて親に愛を求めた形の中でSOSを出していることもあろうかと思えます。</p> <p>最後に皆さんに一言ずつ発言していただいて、まとめていこうかと思います。</p>
<p>C 委員</p>	<p>地域力、地域で魅力ある場づくりは、各自治会、コミュニティーで実行されている所も多いと思います。例えば多田グリーンハイツでは、8月4日、5日とサマーカーニバルをやります。すごい大掛かりの地域のイベントで、たくさんの方が集まりますし、みんな楽しみにしているし、それに向けて今準備しています。でもこれもやはり</p>

<p>C 委員</p>	<p>ルールがあってこそ楽しいお祭で、ただやりただけではなく、そのお祭もどんな風にすれば楽しくなるか、ごみ、騒音、マナーのことなども一つひとつきちんとやっていってこそ初めて楽しいお祭ができる。そういうことを地域で教育をしていく。楽しい場面でも教育が必要であるということを、親から子ども達に向けてやっていく。地域でそういうことがたくさんあるので、もっと利用して参加を呼びかけるとかそういうような形がこれから必要になってくる、それが場づくりかと思います。</p>
<p>A 委員</p>	<p>情報を得られない、得ようとしらない人に如何に行政サイドからではなく、地域の中から伝えていくのかが必要だと実感しています。それをどうしたらというのを、人に言うのではなく自分から動こうかと思っています。</p>
<p>D 委員</p>	<p>今日のテーマは子育て、家庭教育ということで、子育てについての資料（かわにし子育てマップ）を見させていただいて、非常にすばらしい資料ができているということを実感しました。この子育てから教育になんとかつながらないものかと今日考えていました。母親学級とか参加される方がどういう方なのかわからないのですが、先程 F 委員が言われたように、幼稚園、小学校、中学校、高校と進む中で、中学校のところで民生指導員を中心とした会を催されて、5分の2の学ぼうという気持ちのある親御さんに来ていただいて、あとの5分の3をどのような形で学んでいただくかというのがキーワードになると思っています。</p> <p>家内とそういう所に来ない親御さんをどうすればいいかという話になって、机上の話でやっていくのではなく、一人ずつ問題のあるお母さんの所に、何とかしてあげようと思うお母さんが話を聞きに行っけてあげて、問題として思っていないから問題だよということ</p>

D 委員	<p>を言ってあげる事から始まるということをお話したのです。</p> <p>一番原点なのはそういう地道な活動で、そういう小さなことが大切。システムづくりという形と矛盾するようですが、システムがある上に個人的に地道にやっていく活動も大切だと思います。学ぶということをおなんとかシステム化できればということが今日思ったところですね。</p>
F 委員	<p>保護者はいろいろなネットワークを持っておられる。いろいろな所で意外な人がつながっている。自治会長さんと保護者がつながっていたりとか。結局、ネットワークから漏れてしまっている方をどうやって拾っていくかというのが一番の課題だと思います。</p> <p>私の学校の場合は案内状などを、子どもが持って帰るのではなく、愛護部の方が家庭訪問をして配っているという仕組みがある。「これは大事な仕組みですよ。」と言っています。役員を決めるのも選挙ではないです。「選挙は民主的だけれど、つながりが切れていくからダメです。うちのシステムは絶対にいいですから、値打ちがありますよ。」と言っています。愛護部のお母さんも生活が目一杯の方が多と思うので、中々そこまでできないが、持って行くだけでなくそういうアドバイスや話もできたらいいなと思います。今のシステムを大事にしながらネットワークに掛かっていない方をどうやって拾っていくかが課題と思っています。</p>
議長	<p>今、F委員のお話を聞きながら、あの伝統は続いているんですね。川西の南部の地域の見えないところの地域の力が伝統的に引き継がれているんですね。</p>
F 委員	<p>こういった時代だから余計に価値がありますよとPTAの役員さんにお話しているのです。</p>

<p>G 委員</p>	<p>学校の安全協力委員のボランティアは自治会、コミュニティーを通じて応募していただいているのですが、同じ志を持った者同士が、誰がいるのかということを知ることが必要だと思います。許可してくれた人だけですが連絡網を作って、緊急時に使うという目的も多少はありますが、むしろ、同じ志を持った誰々さんがこの近くにいるとわかっている、そういうことが非常に大事だと思うのです。</p> <p>また、安全協力委員の方々に学校に来ていただいて、子ども達がお礼を言う、単に恩恵を受けっぱなしでなく子ども達も感謝の意を表す場を作っています。</p> <p>私の所も地域の祭りがあるのですが、学校としてどんな協力ができるかと考えます。場所の協力ぐらいしかできないのですが、草を刈ったり、木を剪定したり、何か学校の意思、協力の心が伝わればいいかなと思っています。</p>
<p>B 委員</p>	<p>先日人権の研修会、対話から始まる人権学習というのに行ってきました。まさに今聞いてて、こういうもの（かわにし子育てマップ）だけでなく会話を交わすということが大切だなと思いました。その先生は人権の講習会をする時にまずお隣同士で話してもらうことから始めて、コミュニケーションがとれるような場づくりが大事とおっしゃっていました。それは同じエピソードを重ねていくことから始まって人と人が同じようにつながっていくのはそういうところから始まりますというのがありましたので、是非こういうもの（かわにし子育てマップ）と一緒に公民館の方が、不安そうな人がいたら、保健センターに行ってみたらどうですかとか、子育てセンターがありますよとか、そういう場所をお伝えしていただけたらと思います。そこへ行かれることで安心感が得られたりすることがたくさんあると思います。</p>

<p>E 委員</p>	<p>一人の力には限界があると感じているのです。しかし、その一人の力をベースにして広げていく、賛同者を如何に増やしていくかということが一番の原点だと思います。</p> <p>具体的にいうと、公園デビューということで、昔よく言われた。最近、明峰地域のことで、ある方がいついつ何時から公園にいますからということで開いた。そういった所に私も行ったのですが、わりと大人の方がおられる。公園デビューという形は公民館に来る前の一番近いところの集まる場所である。地域の人が散歩にその時間行ってもらったらいいだけのことで、それによって話ができる。その仕掛け人は、子どもに掛かる役員をしている方というのは子どもが卒業しても残られている方がいる。残られている方をベースにして我々が補助者としてバックアップしてあげる必要がある。</p> <p>これを感じたのは読み聞かせです。お母さん方が3人でやっておられるのですが、子どもはもう高校生になっておられるのに続けられている。それは、あとする方が少なく、増えないので情性的にやっているという話でした。すなわち、関わっていたけれど、子どもが離れたことによってそういう関わりがなくなってしまっている。現在の社会情勢においた形で、次の段階にいかなければいけない。</p> <p>各学校において下校見回りがあり、私も行って参加して、子ども達に「危いからこっちを通り。」と大声を出したら、お母さん方が「なぜ子どもにそんな大声を出すのか。」と言われた。「危ないのに聞こえるように言わなければいけない。」と言うと「そうですね。」と理解してくれる。それが対話の原点になっているのです。</p> <p>応援者を我々が見つけていって、その人たちがやる気を出す形にもっていくことを続けてみたい。</p> <p>先程の中学生の話をしました。親からの反対意見も十分把握した上で関わっていきたいと思います。</p>
<p>A 委員</p>	<p>中央図書館の委員会にこの間行ってきまして、子ども読書サポ-</p>

<p>A 委員</p>	<p>ター事業があるのですが、平成18年から20年の3カ年において約100名の養成事業を行っていらっしゃる。その方々がプロだという意識で出て行かれた時に、既存の読み聞かせグループでずっとやってこられた方との兼ね合いはどうなるのかなと不安があります。</p>
<p>議長</p>	<p>中央公民館でもそういうグループを育てたり、定期的に講座を開いたりやっていらっしゃいますので、その連携の部分ですね。やはり情報発信に限ると思います。</p> <p>体育、スポーツ関係はあまりここでは論じていないのですが、相当大きな力を持っていると思うのです。F委員は部活のことをおっしゃっていましたが、中体連関係でないにしても体育協会関係のスポーツに参加して、結構自己充実を図っている部分があるので、一度その辺を分析しながら、いい部分は更に発信していくという努力は必要ではないかと思っているのです。中学校は7割近くの部分は運動でしょうね。例えば市の協会の柔道大会など、学校関係は中体連のみを考えやすいのですが、よく考えたらスポーツ団体が主催でやっていらっしゃる部分に子ども達が参加し、場づくりに貢献していただいているので、我々の委員の会でも確認をしながら発信をしていかなければいけないと思っています。</p> <p>人と人とのつながりがりの部分ですが、例えば人権の話を読まれたのですが、虐待の問題にしても、いじめの問題にしてもずっと突っ込んでいったら子どもと親、親同士、大人との関係の中で子どもがぐちゃぐちゃになってしまって、それが不登校に出てきたりいじめに出てきたりというようなSOSをキャッチする組織も川西の場合はこの資料の中に入れていただいていますし、その辺は充実していると評価しながら、今日の子育てを中心に話した部分はこれで終わらせていただいて、次回、どの分野に入っていくかは私自身もわかりませんが、また的を絞って論議できたらと思います。</p> <p>D委員が前に言われていた、ある学校のPTAのおやじの会の事例が、読売新聞に出ていました。団塊の世代のデビューの場面をどれ</p>

# 審 議 経 過

No. 29

議長	だけ地域で作っていくかということなども、本人の努力も大事なのですが、次回、論じられたらと思います。
----	---